

落ち水見学会 (本日午前実施)

2026年1月14日

於：安曇野市役所 本庁舎3階
全員協議会室

地点1 (拾ヶ堰：流量少)



地点2 (拾ヶ堰：流量多、落ち水流入)



【落ち水（流入水）とは】

西山（松本盆地の西側に広がる山々）から流れる沢水（河川水）等を起源として、毎年10月から翌年3月頃まで農業用水路の保守のため、下流の排水路等に流下・流入する水のこと。

安曇野市内では、主に拾ヶ堰（農業用水路）に排水しており、拾ヶ堰土地改良区としてはその水の用途は「ない」とのこと。落ち水は、各土地改良区での水利目的（水路維持用水）を果たし、下流に流れる落ち水、溜水（たまりみず）として捉え、水利権が及ばない水と考えられている。

前回会議の振り返り

2026年1月14日

於：安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

yec 八千代エンジニアリング株式会社

1. 水利権における用途（全体会）

Q1: 水利権における用途は。

A1: 発電、水道、鉱工業用水、かんがい、その他となっている（下表）。

用途	（許可）水利権としての分類（慣行水利権※4 除く）		
	特定水利使用※1	準特定水利使用※2	その他の水利使用
発電用水	最大出力1,000kW以上※3	最大出力200kW以上	左記以外の水利使用（養魚、し尿処理等）
水道用水	最大取水量2,500 m ³ /日 又は給水人口10,000人以上	最大取水量1,200 m ³ /日 又は給水人口5,000人以上	
鉱工業用水	最大取水量2,500 m ³ /日以上	—	
かんがい用水	最大取水量 1.0m ³ /s 以上 又はかんがい面積300ha以上	最大取水量 0.3m ³ /s 以上 又はかんがい面積100ha以上	
その他用水	—	最大取水量1,200m ³ /日 以上で、発電、水道又はかんがい以外に供するもの	

※1 河川法施行令第2条第3号 ※2 河川法施行令第20の2条 ※3 河川法第23条の2の登録の対象となる流水の占有に係るものを除く

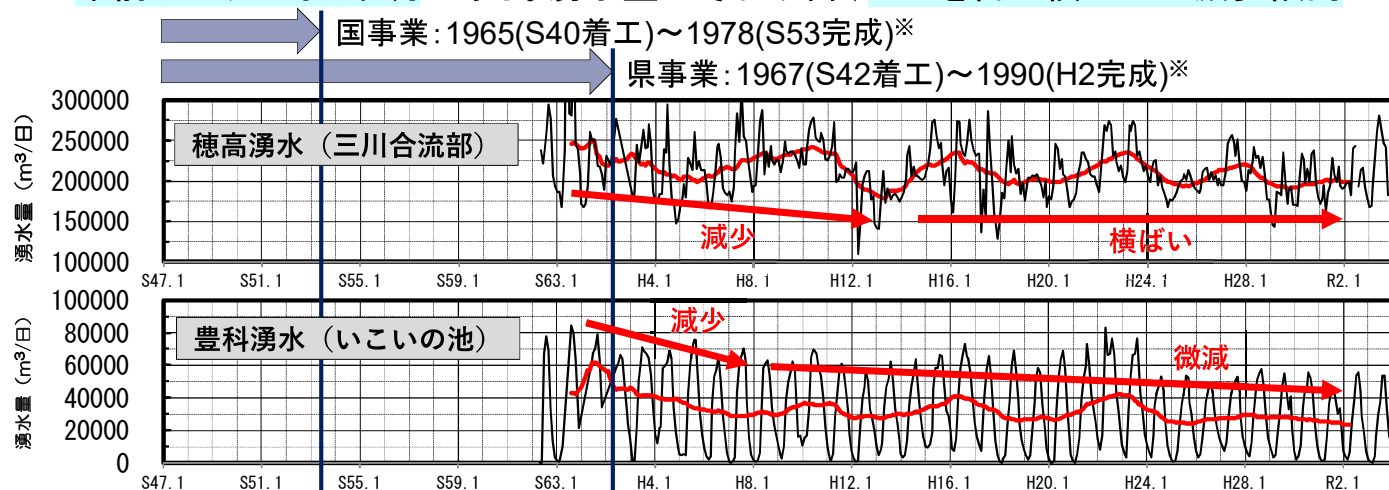
※4 旧河川法（明治29年公布）施行以前あるいは河川法の適用を受ける法定河川（一級、二級、準用河川）として指定される以前から、特定の者による排他継続的な事実上の水の支配をもとに社会的に承認された権利をいわゆる慣行水利権といい、これについては、改めて河川法に基づく取水の許可申請行為を要することなく、許可を受けたものとみなされる。

参考：国土交通省HP 水利権申請の手続き（<https://www.mlit.go.jp/river/riyou/main/suiriken/sinsei/index.html>）ほか

2. 土水路三面張りとは地下水位低下の関連性（全体会）

Q2: 地下水量の減少が、H23頃の水路のコンクリート三面張化による可能性について

A2: 土水路三面張りが本格化したのはH2頃の中信平農業水利事業と考えられる。安曇野市に位置する穂高湧水（三川合流部）と豊科湧水（いこいの池）の湧水量との関連性は、事業前データがなく不明である。湧水量はそれ以降、H23を含め横ばい～減少傾向にある。



© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

※出典 (一社)農業農村整備情報総合センター 水土の礎 https://suido-ishizue.jp/nihon/07/img/pdf/06_1.pdf

3

3. 下水道管と帯水層の位置関係（災害井戸分科会）

Q3: 下水道管が帯水層に入っているかどうかを確認したほうがいい。

A3: 下水道管は、**流域幹線**で深度約5m、それ以外で深度2m付近に配管されている。

地下水位が概ね深度5m以浅の範囲は右の水色部分で、この範囲には流域幹線が地下水内に配管されている。



※出典 厚川安曇野流域下水道 アクリア安曇野パンフレット
https://www.pref.nagano.lg.jp/azuminoryuiki/jigyo/documents/documents/a4_hp3.pdf

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

4

4. 河川を用いた涵養施策（涵養施策分科会）

Q4: 福井県大野市において、河川を用いた涵養施策を行っている。

A4: 涵養目的ではなく、ダム下流の河川環境改善を目的に実施されている。安曇野市においては同様の施策は困難であり、ほかにビオトープ等を用いた涵養が考えられる。

1. 流域マネジメントの推進

2023.3.14

9. 真名川における自然出水再現放流の実施

～九頭竜川ダム統合管理事務所～

真名川ダムでは、出水期に洪水調節容量の一部を有効活用して、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で流水を貯留し、春先に放流（フラッシュ放流）することで、ダム下流の河川環境改善を図ります。（ダムの弾力的管理）
また、弾力的管理により洪水調節容量に貯留した流水は、水力発電による放流で貯水位を低下させ、再生可能エネルギーの創出にも最大限活用します。

- 放流日時
○放流日時：令和5年3月14日（火） 7時～18時
○放流量：11時頃に最大放流量 毎秒200立方メートルに到達。
以降、毎秒200立方メートルを6時間継続し、放流を終了。
- 真名川の水位への影響
○佐開橋（大野市五条方、ダム下流約4km付近）では、
12時頃に最大1.85m(0.22m→2.07m)水位が上昇しました。
○富田大橋（大野市中保、ダム下流約10.5km付近）では、
17時頃に最大1.77m(1.27m→3.04m)水位が上昇しました。
- 河川環境改善の効果（検証中）
○主なモニタリング調査（河床材料の粒度分布、付着藻類相やシルト堆積、魚類の個体数、底生生物、植生の分布状況 等）

【位置図】



【真名川ダム放流の様子】



【佐開橋（放流時）】



【佐開橋（放流後）】



【富田大橋（放流時）】



【富田大橋（放流後）】



【礫（川石）の状況】



フラッシュ放流により、古い藻類やシルトなどの付着物が洗い流されました。

※出典 大野市水循環推進協議会
https://www.city.ono.fukui.jp/kurashi/kankyo-sumai/mizujunkan/mizujunkan/mizujunkansuis-hin.files/0015_20230330.pdf

計画書の目次（方針）

2026年1月14日

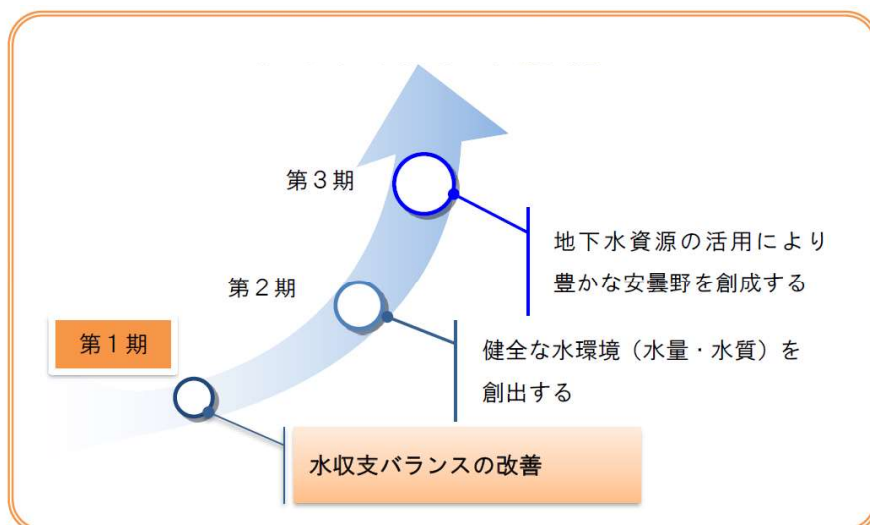
於：安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

yec 八千代エンジニアリング株式会社

1. マスタープラン目次（基本的な考え方）

安曇野市水環境基本計画に示された「目指す将来像に向けた基本的な考え方」を踏まえ、第2期となる「健全な水環境（水量・水質）を創出」する。



1. マスタープラン目次（方針：健全な水環境の創出）

第1章 計画の基本事項

- 1 計画の目的
- 2 計画の位置付けと役割
- 3 計画が対象とする期間
- 4 各主体の役割

地下水採取者の
役割の見直し

第2章 水環境の現況

- 1 水環境を取り巻く動向
- 2 安曇野市の取組
- 3 自然的要素の現況
- 4 社会的要素の現況
- 5 安曇野市の水収支
- 6 これまでの取組
- 7 安曇野市の水環境の現状と留意点

改定水循環基本計画

気候変動(気温上昇、
豪雨、融雪早期化)

人口減少、農地減少(都市化)

麦後湛水実績・効果、300万^ト達成

第3章 安曇野市が目指す将来像

- 1 現在の延長線上にある将来と選択する未来
- 2 水環境基本計画のコンセプト

現状の課題への取組の継続と保全対象の市域全体への拡大

第4章 目指す将来像に向けた基本的な考え方

- 1 基本的な考え方
- 2 施策の目標設定

健全な水環境（水量・水質）の創出

第5章 施策の体系

- 1 水を貯める・育てる施策
- 2 水を上手に使う施策
- 3 水を清らかなまま維持する施策
- 4 水を大切に誇りに思える施策
- 5 地下水保全・強化・活用を
支援する社会システムの構築
- 6 推進のための体制づくり

涵養施策議論反映

災害対策、節水

水質保全に関わる関係
者の拡大

普及啓発、市民活動、
情報チラシ

ふるさと納税の活用
関係機関との連携強化

内容再検討

第6章 計画の推進

- 1 計画推進のための体制
- 2 計画の進行管理

2. アクションプラン目次

マスタープランとの合冊（マスター～アクションの一本化）

第1章 水環境行動計画（アクションプラン）の基本事項

- 1 行動計画（アクションプラン）策定の背景
- 2 計画の位置付けと役割
- 3 計画が対象とする期間
- 4 各主体の役割

マスタープラン
第1章に統合

第1次計画の実績を踏まえ、施策毎の
継続要否判断・新規設定を検討

第2章 実施施策

- 1 水を貯める・育てる施策
- 2 水を上手に使う施策
- 3 水を清らかなまま維持する施策
- 4 水を大切に誇りに思える施策
- 5 地下水保全・強化・活用を支援する社会システムの構築
- 6 推進のための体制づくり

マスタープラン
第5章に統合

第3章 行動計画（アクションプラン）の推進

- 1 行動計画（アクションプラン）の進行管理
- 2 施策の進捗状況の点検・評価・公表
- 3 水収支の評価

マスタープラン
第6章に統合

災害井戸

2026年1月14日

於：安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

yec 八千代エンジニアリング株式会社

1. 前回意見交換の要旨（災害井戸）



- ・災害井戸における前回会議での意見交換の要旨は以下のとおりである。
- ・事務局にて、計画改定へ向けた方向性を整理した。

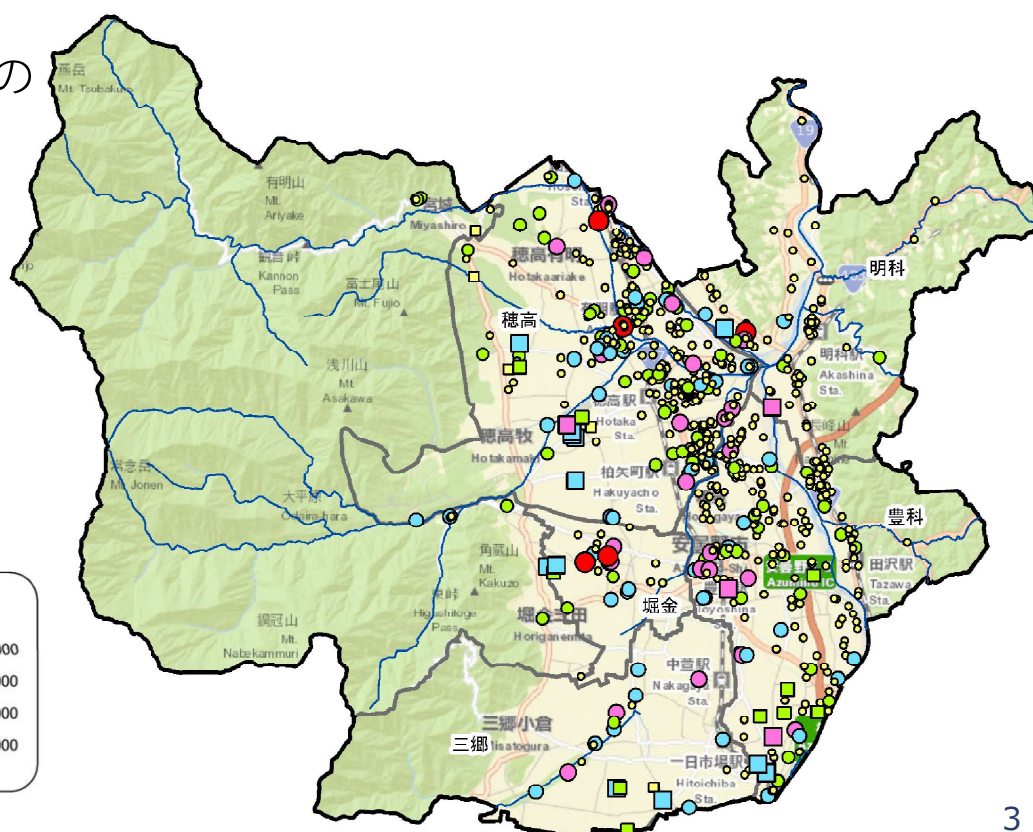
要旨	内容	課題	方向性（案）
①	災害井戸の必要性	－	「必要」と判断し何らかの形で組み込む
②	計画への組み込み方法	他の計画との役割分担	総務部危機管理課等と調整中 （地域防災計画を踏まえ検討、次頁）
		「水を上手に使う」への組み込み	同左意見
③	今後の取り組み	利用可能な井戸の把握	井戸自体は市内盆地部全域に散在（次々頁）
		協力可否の意向確認	企業井戸への協力を検討 （利用者受入の観点から、現実的と判断）
		自噴井戸の所在	所在（位置、利水者、用途等）確認中

- ・地域防災計画等、他計画との整合性を図りつつ、災害井戸の認知向上、非常時の活用
の確実性向上に資する取組を行うことで、常時の地下水に関わる関係者を拡大する。

【参考】安曇野市の井戸分布

- 平成25年の条例施行の際、井戸所有者から652の井戸の届出がありました。
- これらの井戸は市内全域に分布しています。
- これらの井戸は普段から使用している方が多いです。
- 令和5年度時点では、745の井戸の届出があります(廃止・休止除く)

上水道以外の水源 年間揚水量 m ³ /年	上水道水源 年間揚水量 m ³ /年
* 0 - 1,000	■ - 200,000
● 1,001 - 10,000	■ 200,001 - 400,000
● 10,001 - 100,000	■ 400,001 - 600,000
● 100,001 - 1,000,000	■ 600,001 - 800,000
● 1,000,001 -	■ 800,001 -



涵養施策

2026年1月14日

於：安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

yec 八千代エンジニアリング株式会社

1. 前回意見交換の要旨（涵養施策）

- ・涵養施策における前回会議での意見交換の要旨は以下のとおりである。
- ・事務局にて、計画改定へ向けた方向性を整理した。

要旨	内容	課題	方向性（案）
①	「落ち水」の施策としての可能性	水量	拾ヶ堰の烏川への排水量（目視）から十分にある
		水利権	今後確認（目的を終えた水と捉えれば、水利権が及ばない水とも解釈される）
		涵養場所	受託研究により検討中（次頁）
		担い手（資金）	受託研究の結果を受け検討
		その他課題	周辺影響（水田湛水による渡り鳥影響等）を低減可能な工夫を検討
－	その他、涵養施策	取組可否検討	新たな涵養施策（冬期の三川合流部近傍〈流出域〉）

- ・「落ち水」については、今後、更なる意見交換や関係機関への確認等を行っていく。

地下水涵養・流動機構の解明 中間報告 まとめ

- ・三川合流部近傍(流出域)での涵養施策は即効性がある。
- ・施策により涵養された浅層地下水は流出域方向に流動する。
- ・地下水面の尾根での涵養施策が有効と考えられる。
- ・以下の3カ所が施策の候補地として良い可能性がある

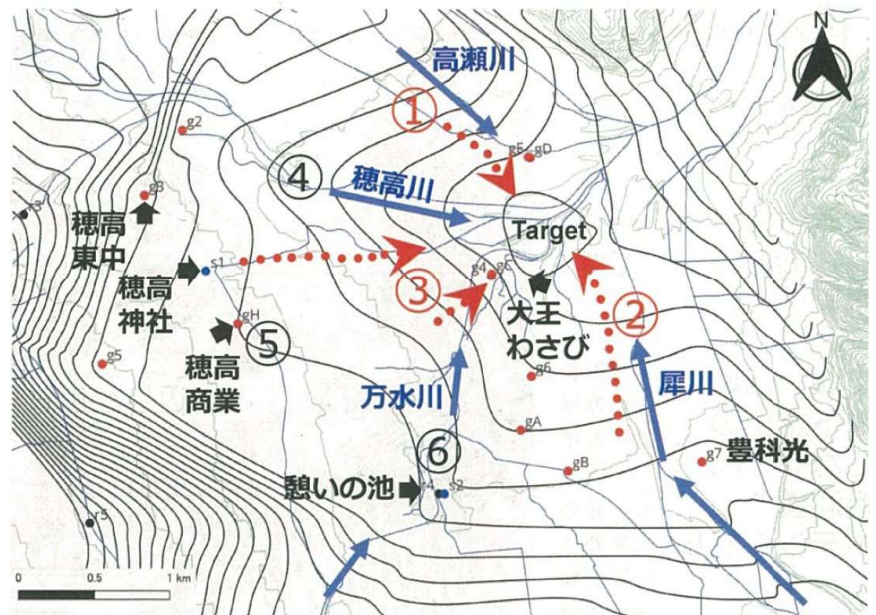
①高瀬川右岸域

②犀川左岸域(わさび田あり困難?)

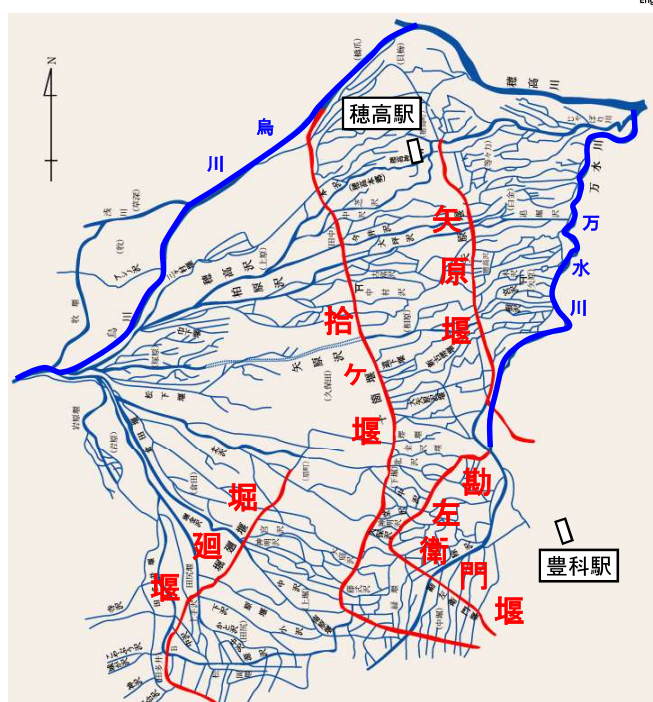
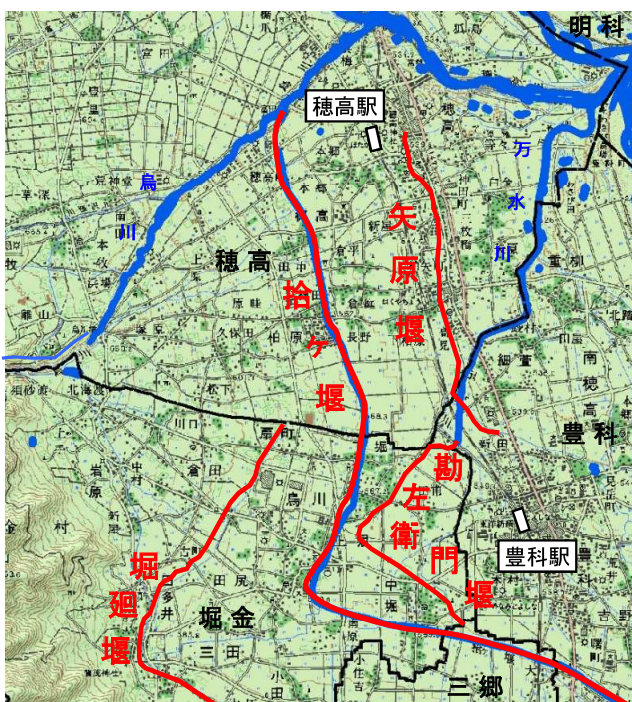
③万水川ー穂高川

次回(3/16予定)会議で
榊原助教より最終報告

※受託研究 令和6,7年度犀川三川合流部地下水涵養施策の効率化へ向けた地下水涵養・流動過程の解明(信州大学理学部理学科物質循環コース助教榊原一)より



【参考】安曇野市の水路網



普及啓発

2026年1月14日

於：安曇野市役所 本庁舎3階 全員協議会室

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

yec 八千代エンジニアリング株式会社

1. 前回意見交換の要旨（普及啓発）



- ・普及啓発における前回会議での意見交換の要旨は以下のとおりである。
- ・事務局にて、計画改定へ向けた方向性を整理した。

要旨	内容	課題	方向性（案）
①	ターゲットの整理	目標、目的、活動参加者等の整理による活動参加メリットの明確化	【方針】 ①普及啓発活動参加のメリットの明確化 ②参加者拡大に資する行動計画検討 【検討案】 ①参加者（個人、企業、職種等）毎のメリット（知見拡大、交流拡大等）の整理（現在の参加者へのアンケート等含む） ②国等の記念日に合わせた取組 ③地域大学、地域企業、周辺自治体との連携 ④小中学校生徒から親に繋ぐ媒体等検討
②	地下水課題の自分事化	地下水課題と実生活の結び付けによる自分事化	
③	運営の持続性確保	職員のための運営からの脱却	
④	参加者の貢献の見える化	参加者のシーズ（出来ること、やりたいこと）とニーズ（活動目的）のマッチング	
⑤	企業の活動への参画	企業参画のインセンティブの創出・明確化	

- ・普及啓発活動参加に対するメリットを明確にし、参加者拡大に資する行動計画を検討する。

© YACHIYO Engineering Co., Ltd.

【参考】神奈川県秦野市の「秦野名水名人」

秦野市地下水総合保全管理計画の改定(R3年4月)「行政主導の施策～市民力を活かした施策へ」

【秦野名水名人講座】

秦野名水の魅力を伝えるための知識の習得

「むずかしいことをやさしく

やさしいことをふかく ふかいことをおもしろく」

- 講義(基礎知識・水道・秦野名水・秦野盆地の生い立ち・汚染対策・世界の水事業)
- フィールドワーク(名水巡り・水道施設・露頭)
- ワークショップ(名水名人になって伝えたいこと)
 - ・R4年度5回実施。19名の修了者
 - ・R5年度5回実施。20名の修了者
 - ・R6年度5回実施。18名の修了者

【秦野名水名人講】

秦野名水を市内外に普及促進することを目的にした「伝える名人」

- 秦野名水名人講座の修了者で構成する84名
- 具体的には以下の活動
 - 秦野名水さんぽ
 - 秦野名水フェスティバル
 - ステップアップ講座
 - ガイドブック作成



(仮称) 松本盆地流域水循環計画の検討状況について

1 趣旨

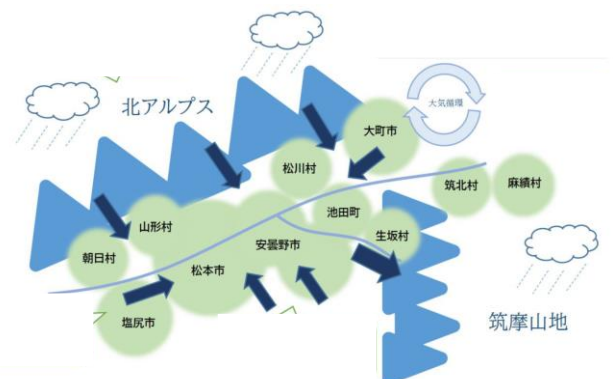
アルプス地域地下水保全対策協議会（発足：H24.2）では、令和 8 年度中の計画策定を目指しています。この計画では、これまで実施した各種調査を総括・分析するとともに、水環境の保全に関わる流域の課題や取り組みの方向を定め、各市町村において具体化するために策定するものです。

2 計画概要（案）

- (1) 範囲：松本市、大町市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、池田町、松川村の 11 市町村（協議会構成団体は、長野県松本地域振興局・北アルプス地域振興局を含む）
- (2) 位置付け：流域の水循環施策を総合的・一体的に推進するために策定します。普及事業など、広域で取り組む事業を掲げるとともに、個別の事業は、各市町村の実行計画及び関連計画において展開します。
- (3) 期間：2027～2036 年度（2031 年度中間見直し）

3 主な内容（案）

- (1) 域内の水収支バランス・地下水賦存量の把握
 - ・一斉測水（R7）、地下水利用実態調査（R8）に基づく算出。
- (2) 気候変動に伴う流域の水環境影響予測
 - ・上記調査に加え、長野県の気温予測等を参考し、松本盆地流域全体及び自治体ごとの水環境の現状と予想を示します。
- (3) 共通意識醸成・人材育成のための取り組み
 - ・水循環ボードゲーム（若年層を対象にした水循環をテーマすごろく型ゲーム。学生交流）
 - ・水資源コンパクト巡回展（広域のつながりと各市町村の水資源の紹介）
 - ・水循環アドバイザーによる研修・講座（職員・市民を対象）



4 安曇野市の計画との整合性（第 2 次安曇野市水環境基本計画）

- ・広域の水循環計画で掲げる取り組みは、適時、各市町村との整合を図ります。
- ・安曇野市では、第 2 次安曇野市水環境基本計画の策定と同時期になりますが、現段階で取り組みの方向性は一致しており、内容については逐次調整を図ります。
- ・安曇野市がこれまで実施してきた各種地下水調査も基礎データとして活用する予定です。
- ・例えば、ボードゲームなど普及事業は、「あづみの水結」の活動と組み合わせた実施を検討します。